

見習い魔法使い君

Apprentice Wizard と his Bluebell Flower.

花の名前

R18  
Adult only



見習い魔法使い君と花の名前

Apprentice Wizard and his Bluebell Flower.

※本作品はR18です。  
18歳未満の方の閲覧はお断りいたします。

はじめに

本作の作中に出てくる“魔法”は  
独自の解釈・定義づけをしています。

実際の“魔法の定義”とは異なる部分がありますので、  
諸々違和感があっても大目に見ていただけますと幸いです。

— 恥ずかしながら

「女の子に  
抱き締め  
られる」

なんて経験は  
今 この瞬間が  
人生で初めてのことで



このあまりにも幸福な  
感触はひとまず  
さておいて

まずは  
何故こんな  
状況になったのか  
経緯の説明と

弁解をさせて欲しいと思う

遠い日

街外れの森に  
魔物が発生して  
多くの生命が  
呪われ取り込まれる  
災害が起きた

その討伐のために  
近辺に工房を持つ  
魔法使いが  
協力するという  
非常事態

当時 幼い僕は  
師匠に連れられ  
その様子を  
見ていた

その  
帰り路のこと

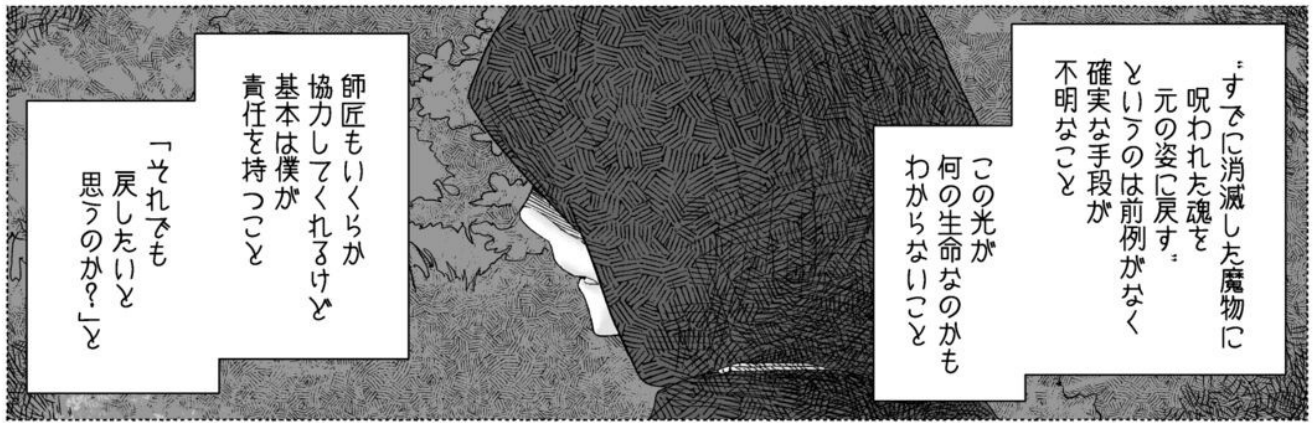
森の片隅に  
ひっそりと咲く  
ブルーベルの花を  
小さく照らす光を  
見つけた

あの魔物に  
取り込まれずに  
済んだ生命の光

その光が  
とても優く  
綺麗だったから

何とか  
助けたいと  
思った僕は  
師匠に  
相談を持ち掛けた

師匠は  
少し考えたあと  
僕に  
問いかけた



「すでに消滅した魔物に  
呪われた魂を  
元の姿に戻す。  
というのは前例がなく  
確実な手段が  
不明なこと

この光が  
何の生命なのかも  
わからないこと

「師匠もいくらか  
協力してくれるけど  
基本は僕が  
責任を持つこと

「それでも  
戻したいと  
思うのか？」と

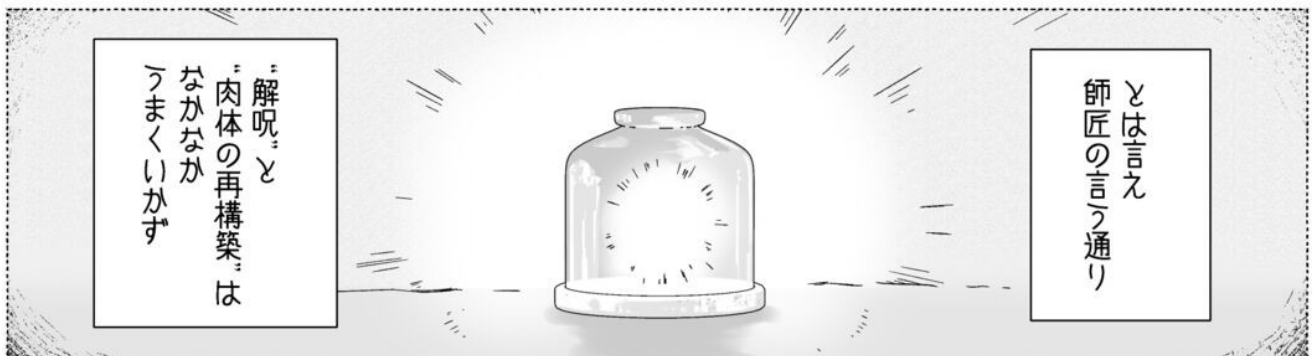


僕は  
その綺麗な  
光とともに  
家路についた



「少しでも  
可能性があるのなら  
助けたいです」

幼い僕は  
そう即答して



「とは言え  
師匠の言う通り

「解呪と  
肉体の再構築は  
なかなか  
うまくいかず



独学でやるのは  
大変だったけれど

魔法がうまく扱えない分  
真面目に勉強をして  
たくさん文献を漁って



理由のひとつは  
僕が魔法使いとして  
出来が悪かったこと

ただただ

この光を  
あるべき姿に  
戻したい  
一心で



魔法はどれも なかなか  
うまくいかなかったけれど  
この綺麗な光が  
存在しているだけで  
僕は嬉しくて

毎日毎日  
自分の魔力を  
分け与えながら  
いろんな話を  
するのが  
日課になった



誰にも言えない事も  
たくさん話せた



嬉しいこと  
悲しいこと

学校でのこと  
面白かった  
本のこと

同年代と比べて  
魔法がうまく  
使えない焦りや愚痴  
…恋の悩み  
なんかも



つたえは  
なかつたけれど  
どんな時だって

その光は  
優しく暖かくて

いつしか  
それが僕の  
心の支えになっていて

親元を離れ  
子供一人で暮らしている  
この工房でも  
孤独だとは思わなかったし

僕は勝手に  
この生命のことを

友達や  
相棒や  
家族のように  
思っていた



——  
ブルーベル？

——あの日から  
10年以上が経ち



昨日より  
大きくなってる？



僕は  
24歳になってた



今日は  
カラス  
なんだ

おはい  
おはよう

師匠  
おはよう  
ございます

おや  
そろそろ  
かな？



何だ  
念願の割に  
喜ばないな

いえ…  
嬉しいん  
ですけど

僕が  
魔法使いとして  
優秀だったら  
もっと早く  
戻ってたん  
だろうなって

この歳でまだ  
見習いだし



そろそろ…  
元の姿に  
戻って事ですか？

多分  
だけだな

呪い自体はもう  
解ける筈だから  
あとは肉体を  
作るだけなんだし



それから  
数日後のこと

おはよう  
ブルーベル

今日は  
いい天気だよ

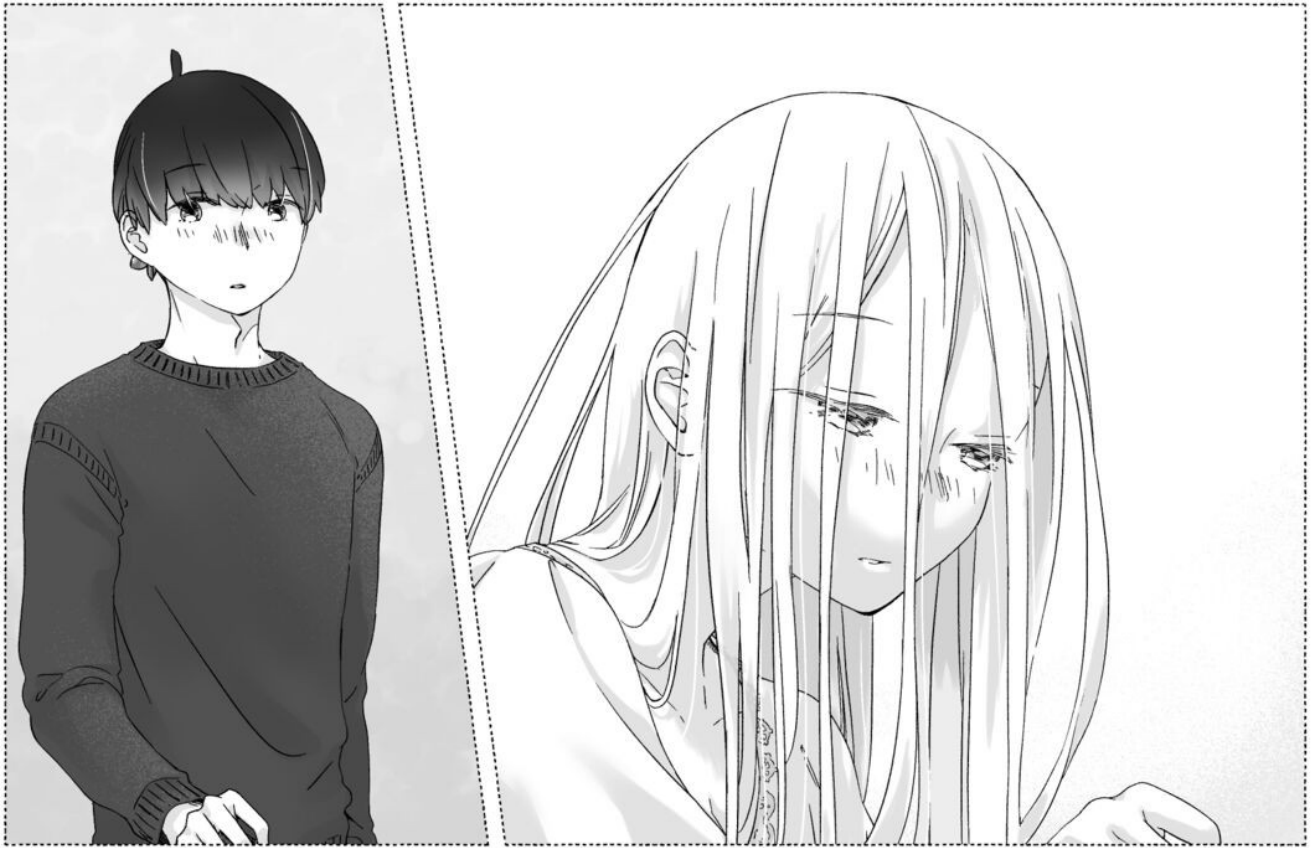
ごめんね

居間で寝ちゃってて  
朝の補給  
日課の時間  
遅くなっ







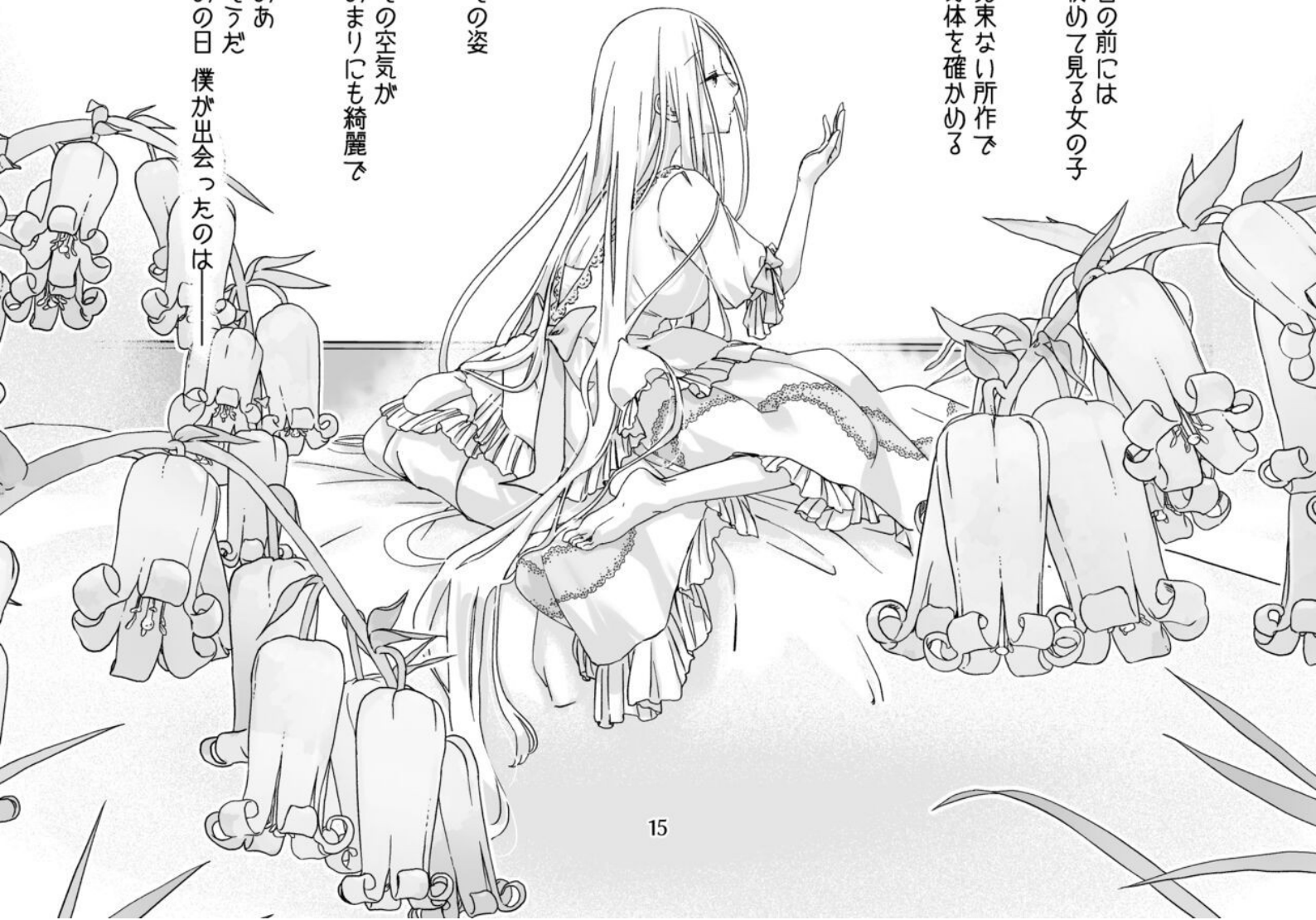


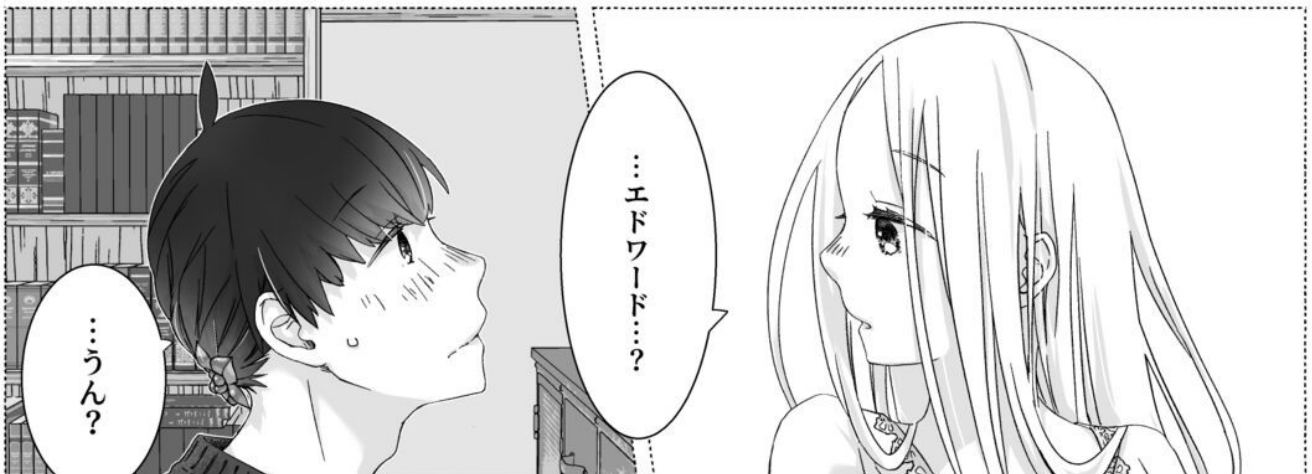
目の前には  
初めて見る女の子  
覚束ない所作で  
身体を確かめる

その姿

その空気が  
あまりにも綺麗で

ああ  
そうだ  
あの日 僕が出会ったのは







そして  
話は  
冒頭に  
戻る



落ち着いて！  
冷静に！  
この状況を  
どうにかしないと

違う！  
駄目だって



やっと…

…はー



どうしよう  
どうしよう  
何これ  
女の子って  
こんな  
あつたかくて  
柔らかいの  
すごい

違っつて  
そんな事より  
身体が  
戻ったこと  
喜ぶたいのに  
ちよつと  
待って  
わー  
なんか良い  
匂いする





まずひとつ  
以前の記憶が曖昧で  
肉体もまだ不安定な  
ブルーベルと  
——女子と  
僕は当面二人で  
生活することになって  
しまったこと



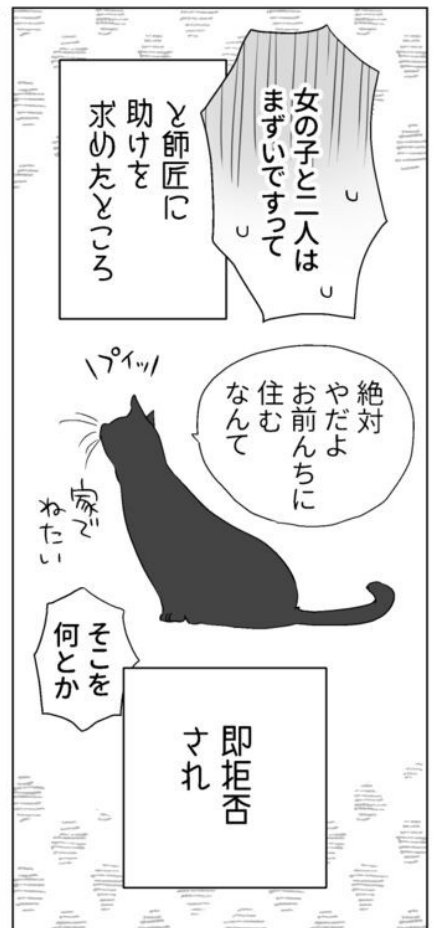
問題は  
それから後の  
全部

う



ふたつめ  
ブルーベルは  
何ていうか

距離感が  
おかしい



と師匠に  
助けを  
求めたところ

女子と二人は  
まずいですつて

絶対  
やだよ  
お前んちに  
住む  
なんて  
パイッ

家で  
なたい  
そこを  
何とか

即拒否  
され





肉体が安定するまでは  
毎朝の日課魔力補給は  
続けることになり

それと

変わらない  
日課が  
もうひとつ

エドワード  
エドワード

お仕事  
終わった?





お待ちせ

やっと  
ブルーベルの  
部屋ができたよ

ベッドしか  
置けない狭さで  
悪いけど



…よし



んー  
そっかあ

お部屋  
ありがと  
エドワード



エドワードは  
一緒じゃ  
ないの？

がうよ



(逃)

ブルーベルの  
身体もだいぶ  
安定してきたし  
魔力補給さえすれば  
ずっと僕の傍に  
いなくても  
多分大丈夫だから

それじゃ

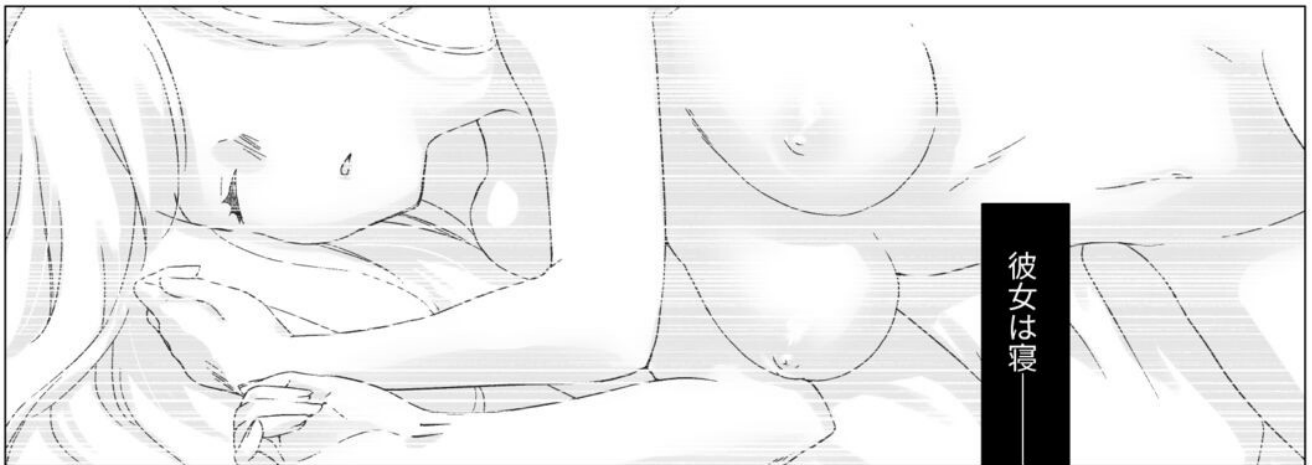
おやすみ

はい

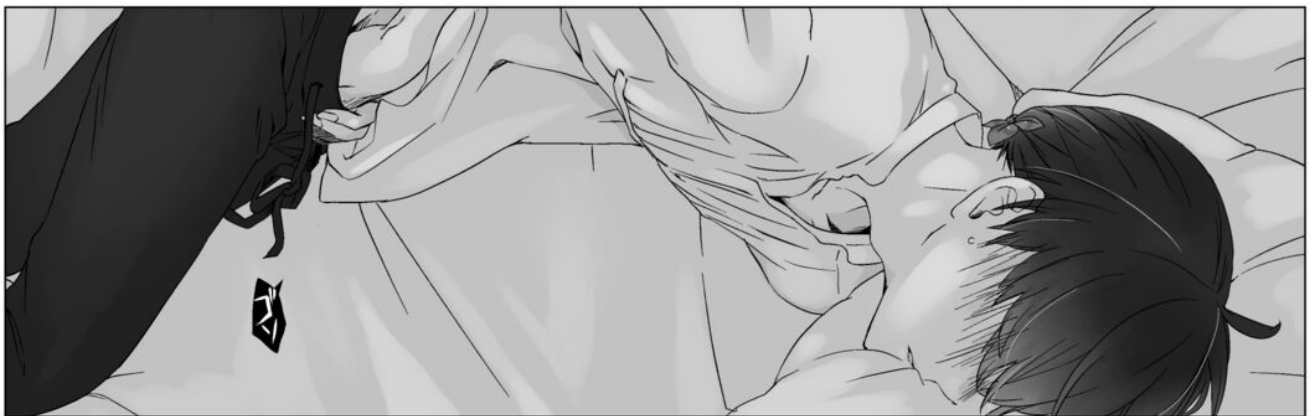


軽率で  
迂闊  
だった





彼女は寝



う



違う

駄目だ  
だめだ

よくない

一か月  
なんとか  
堪えてきたのに

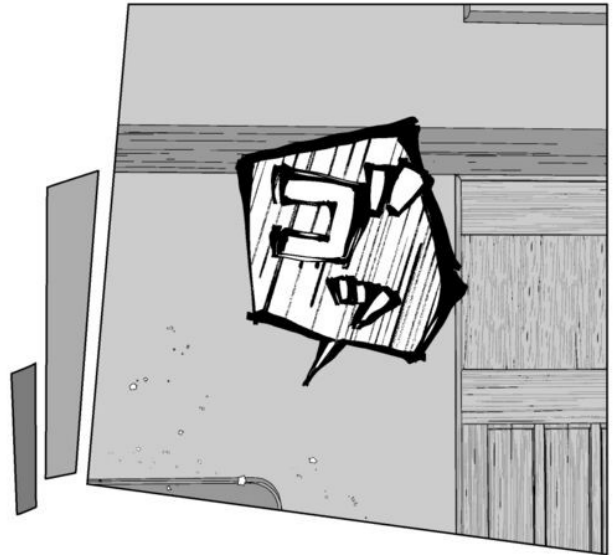
こんなの  
明日どんな顔で  
会えば

このまま

——おはよう  
ございます

おは  
い……

何だそれ



エドワード

今日は私は  
素材調達へ  
行ってくるから

い……



あ、今回は  
僕は……



昨夜  
ベッドの上に  
魔術全集が  
落ちてきた  
だけです

気にしないで  
下さい

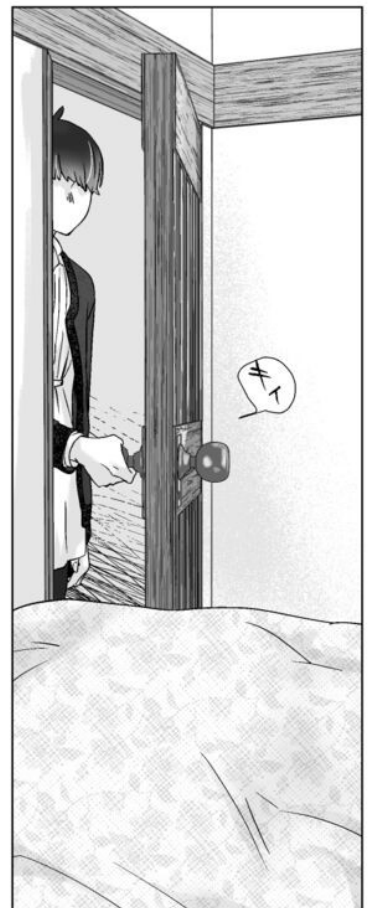
今日は  
フクロウか

本棚から  
ベッドに  
どう落ちるんだ

薬分けて  
やろうか？

全身分  
お願いします









肉体がずいぶん  
不安定になっている



ブルーベルが  
元気に  
しているからと  
我々が  
油断していたんだ

——まあ多分  
今すぐに  
どうこうは  
ならない

——僕  
慌てるのか

大丈夫だ  
泣くな



へっ…？



男が  
女の子に  
キスをする

なんて  
そんなのは  
まるで

お前が何を  
想像してるかは

…まあ大体  
わかるけど

安定するまで  
ずっとこのまま  
魔力を送り続ける  
つもりかい？

即効性という点で  
やる価値はあるよ

そうかも  
しれませんが！

そんな 本人の  
同意もなく

しかも  
意識すらないのに  
キスだなんて

は  
…これだから  
童貞は…

ほっといて  
下さい!!

あれだろ  
童話やらも

美女を  
目覚めさせる  
のは

王子の口づけと  
相場が決まってる  
いるだろ

僕は王子じゃなく  
魔法使いのほうです……

↑  
この  
ぞ？

まあ 色々猥褻な  
想像をしている  
エドワードを  
現実に引き戻して  
すまないが

人間同士が  
水難者を  
蘇生させるのと  
同じだよ

この手は  
ブルーベルに  
身体がないと  
使えないんだぞ



ごめん  
ブルーベル





違っ！

違っ  
見惚れてる  
場合じゃない

この状況で  
ブルーベルを  
そんな目で



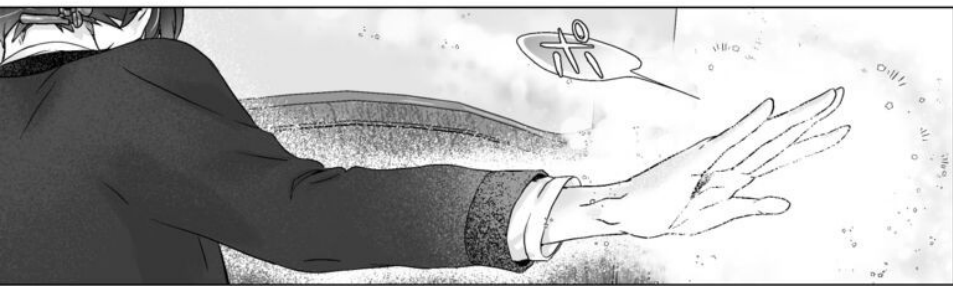
白い肌  
やわらかい頬

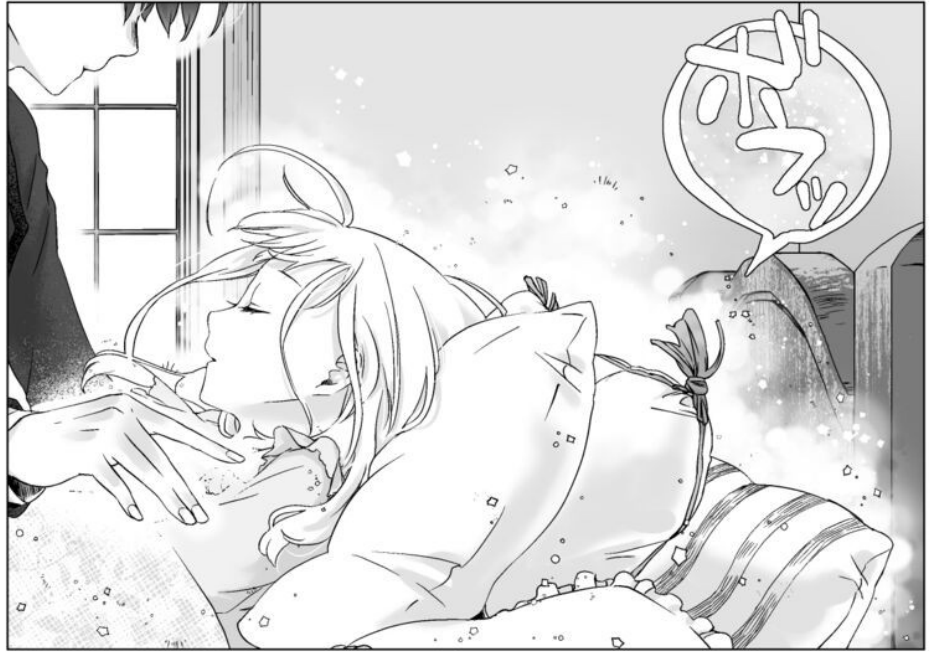
整った顔立ち  
美しい睫毛  
無防備な

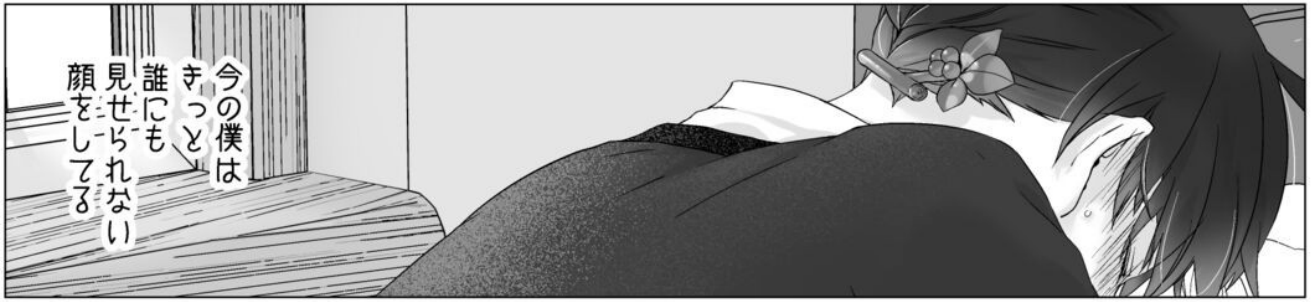


—だとしても

僕は







今の僕は  
きっと  
誰にも  
見せられない  
顔をしてる

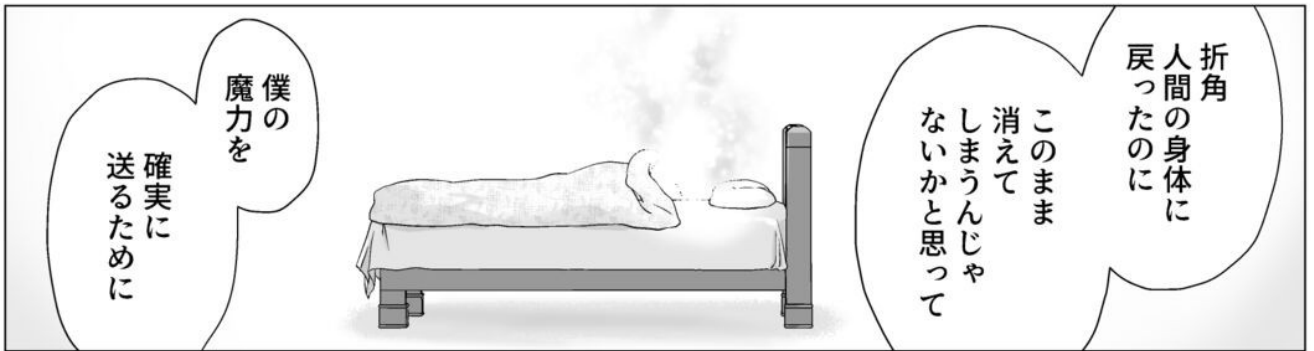
このまま  
唇から溶けて  
しまいそうだった



や...

...エドワード?







んん…

ありがとう  
エドワード

いつも…  
助けてくれて



違っよ

助けられて  
きたのは

支えられて  
きたのは  
僕のほうだ

この10年  
ずっと



— 今後の  
話をしよう



あ  
はい

あれ  
猫だ

その前に



野暮な私に  
言うことは  
ないか？  
エドワード



あまつさえ  
それを良いことに  
38分かけて  
6回もキスを  
楽しむとは！

嘆かお  
しい!!!

やっぱり  
覗き見  
してたんじや  
ないですか!!

あつ  
まさんど  
ません!!



…さつきは  
追い出して  
すみませんでした

ま——私も  
エドワード君の  
人生で初めての  
キスだっことに  
配慮が足りなかつたし  
それはすまなかつたよ

ただその直後愛弟子から  
部屋ごと魔術強化されて  
締め出し喰らうとは  
シヨックだつたな!!

ごめん  
なさい



—ああもう  
師匠相手に  
僕の魔法はまだ  
通用しないんだ…!

念のため  
音声遮断



…じゃなくて  
今後の話を

ああ

まず  
ブルーベルに  
関することは  
対処法を含め  
過去に前例がない

魔物に襲われた魂は  
大抵 程なく消滅するし  
そもそも  
助けようと思える  
魔法使いもいないからな

…はい  
それは僕の  
エゴです

別に責めて  
いないよ  
単に今まで  
そういう奴が  
いなかったって  
だけだ

つまり  
ブルーベルのことは全て  
我々が手探りで  
対処するしかないんだが





エドワード

お前が

ちゃんと  
同意を  
得るんだよ

ブルーベルは  
人間の女の子です

せ 性交なんて

たとえ事情が  
あったとしても  
一方的にされて  
良いものじゃ  
ないんです！

だから



その  
……

ブルーベルは  
10年来の  
友達だから、  
セックスは  
できないと？



パァン

師匠は  
本当に魔法使いらしく  
容赦がない

夜までまだ少し  
時間がある

よく  
考えることだ

まあ たとえ  
同意がなくても  
暗示でも媚薬でも

いくらでも  
方法はある



ふと

あの日の景色が  
頭を過った



起きて  
大丈夫？  
無理  
しないで

うん

いっぱい  
眠ったから  
元気だよー



キィ

!





君の好きな相手や好みの見た目に僕が姿を変えてもいい

君の記憶を書き換えることもできる

でも

少しでも嫌だと思えば拒否して欲しい



…僕も経験はないから

今 見せたイメージは本の知識だけ

これで僕の魔力が充分 君に受け渡せると思う



…なんで？

何？…

その…本来なら

好きな者同士がするものだと思うから



だめじゃ

ないけど…

…いや僕はいいけど君が



んとね

なんでエドワードが姿を変えるの？

え

エドワードのままじゃだめなの？





ずっとずっと  
エドワードが  
話しかけてくれて  
毎日  
楽しかったけど

わたしが話しかけても  
返事がないのが  
ずっとずっと  
悲しかったの

だからね

いま  
エドワードと  
話せるのが  
うれしくて  
触れるのが  
うれしくて

ずっと  
このままで  
いたいの



うん

好きなひとと  
することなら

嫌じゃないよ

……うん





いえ  
お気持ち  
だけ

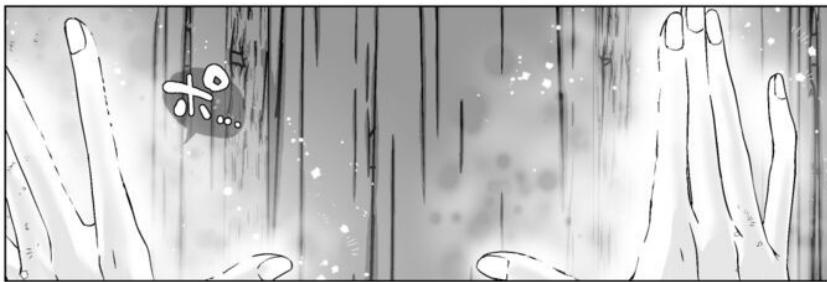
自力でって  
決めたので



……大丈夫です  
魔力にしました

特別に  
媚薬調合して  
やろうか？  
おたく

私の  
専門分野だし



隠蔽なんて  
しても  
やっぱり  
師匠には  
効かないかも  
しれないけど…

…絶対に  
見ないで  
くださいよ



ははは(笑)

ほんっと  
ほんとに  
やめて  
ください

幼い頃に聞いた

ブルーベルの花畑に  
迷い込んだ子供は  
二度と戻らない  
つて言い伝え

でも  
だけど



魔法使いじゃなく  
一人の男として

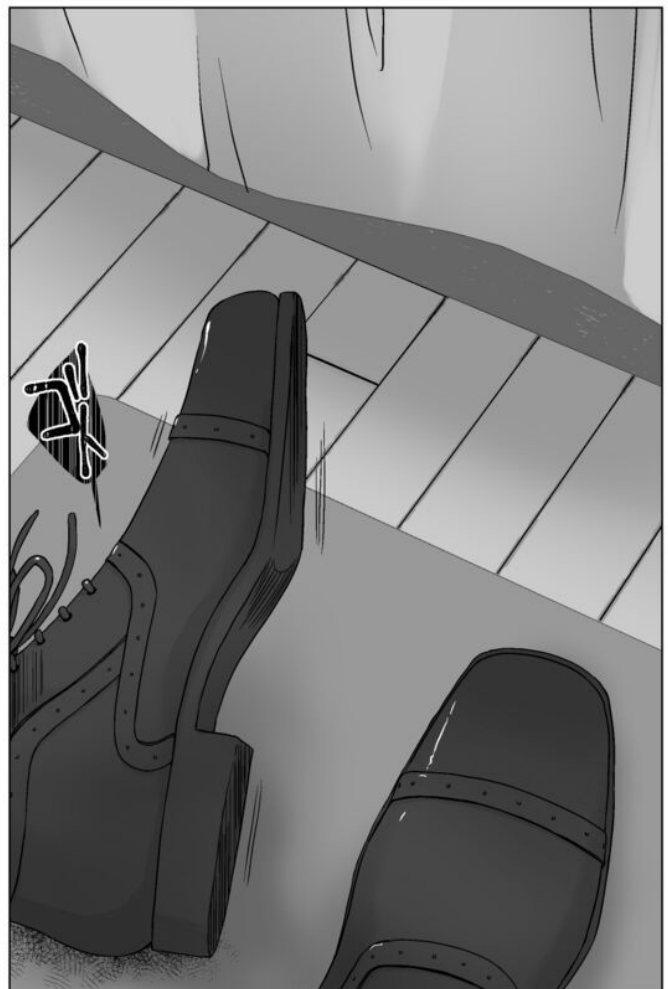
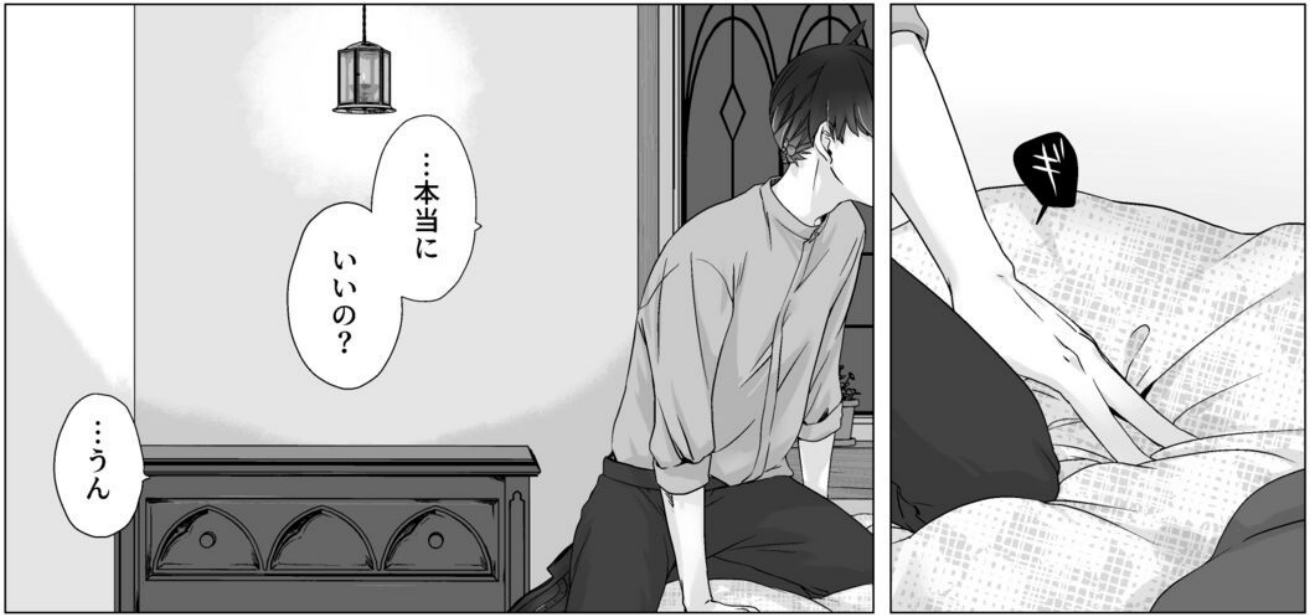
ブルーベル

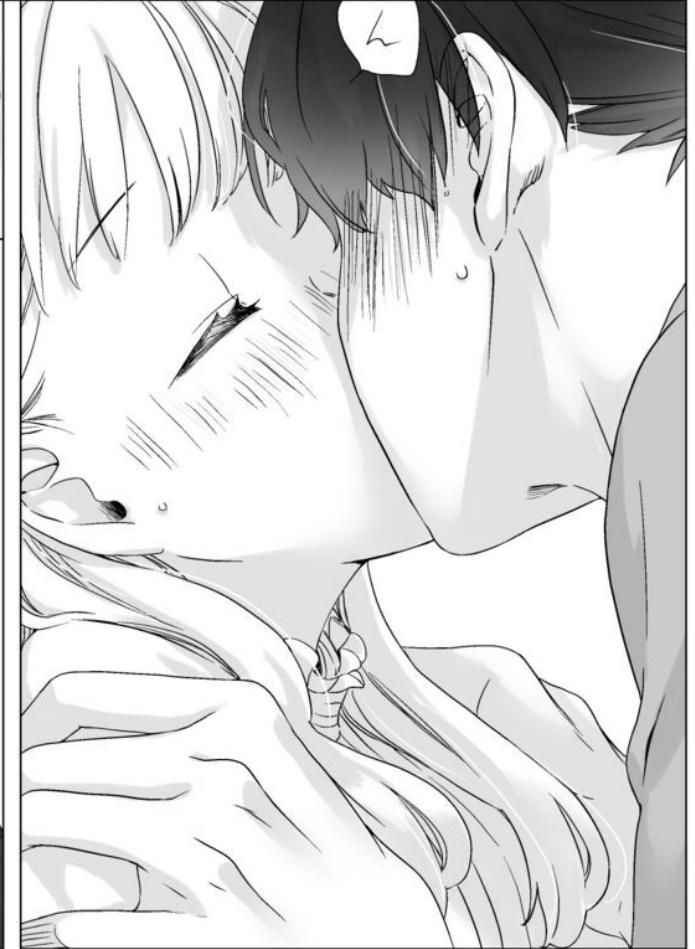
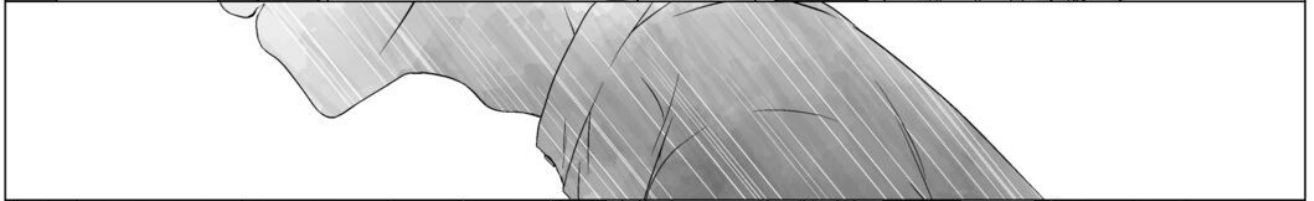
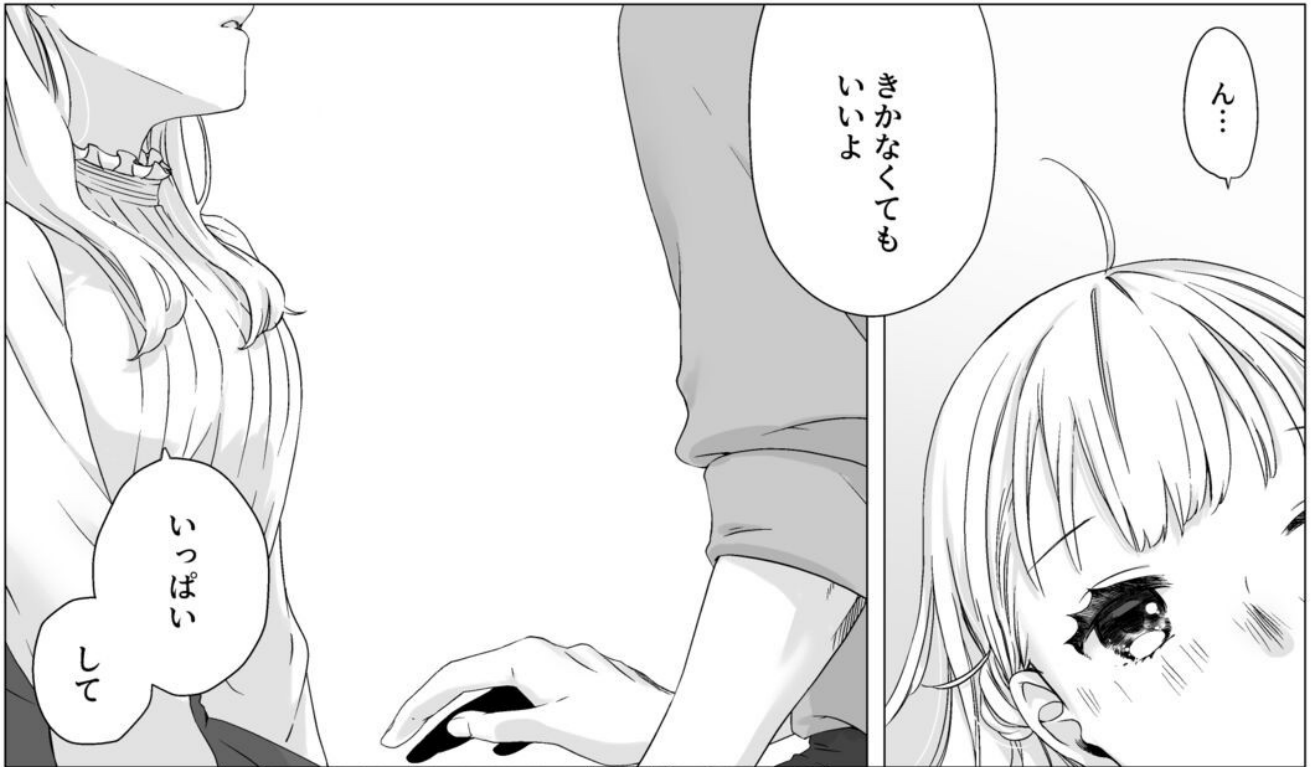
君を

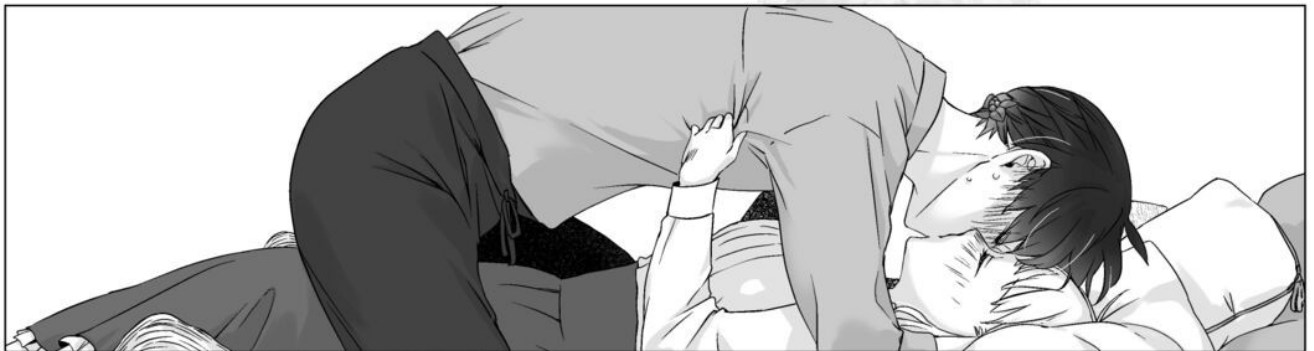


この夜だけなら









キスのやり方も

女性の服の  
脱がし方も

順番も  
なにもかも

全然わからない

でも

これだけは  
わかる

わ

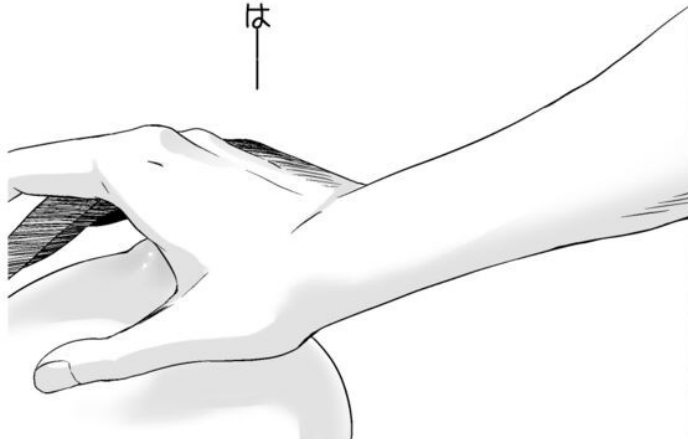
ブルーベル

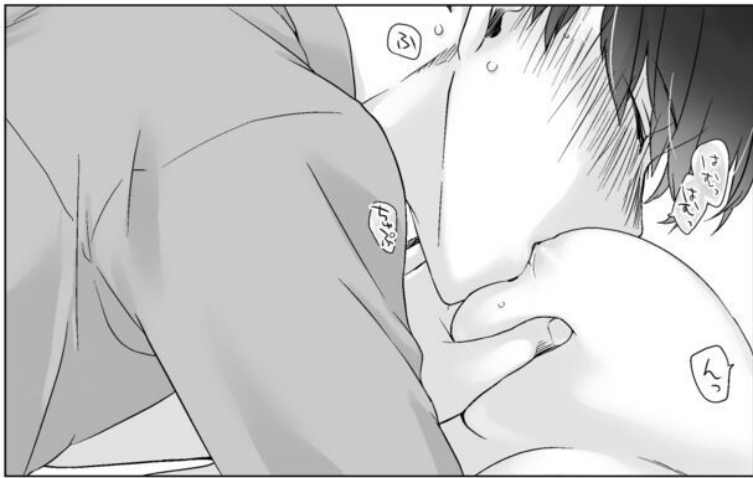


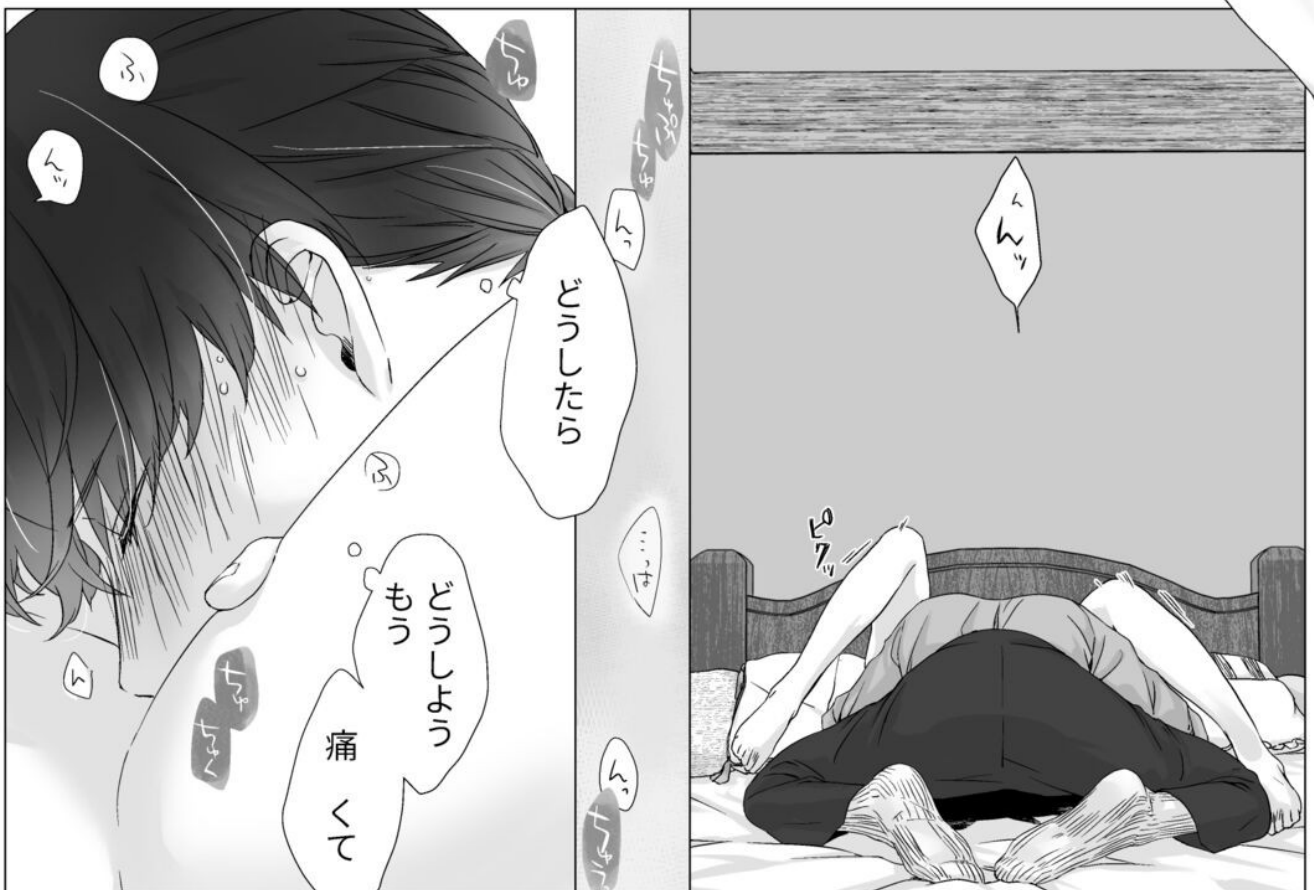
彼女の身体を  
見るのは  
二度目だ



触れるのは——







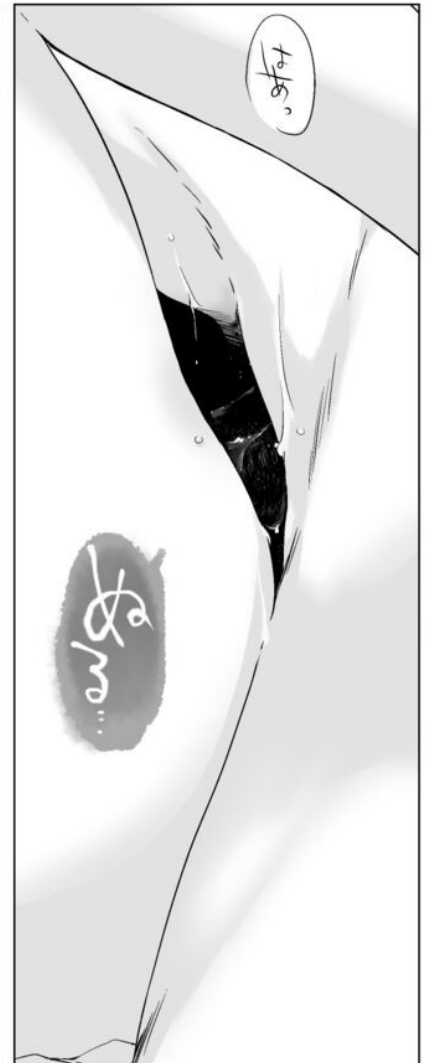
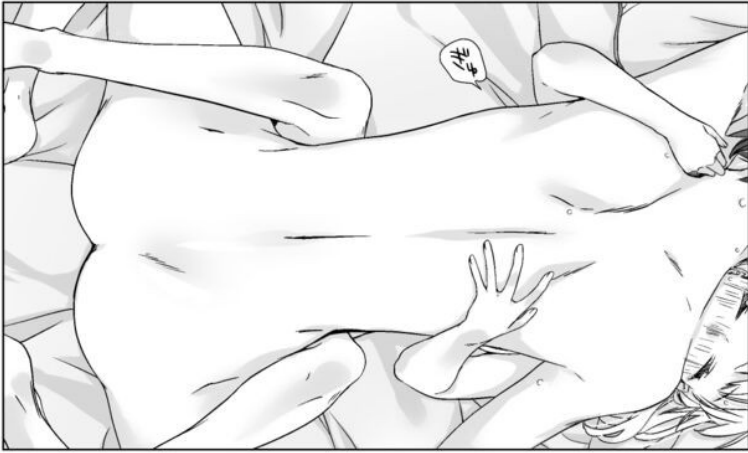


——もう  
考えるな

どうしよう  
とが  
上手く  
やらなきゃとが

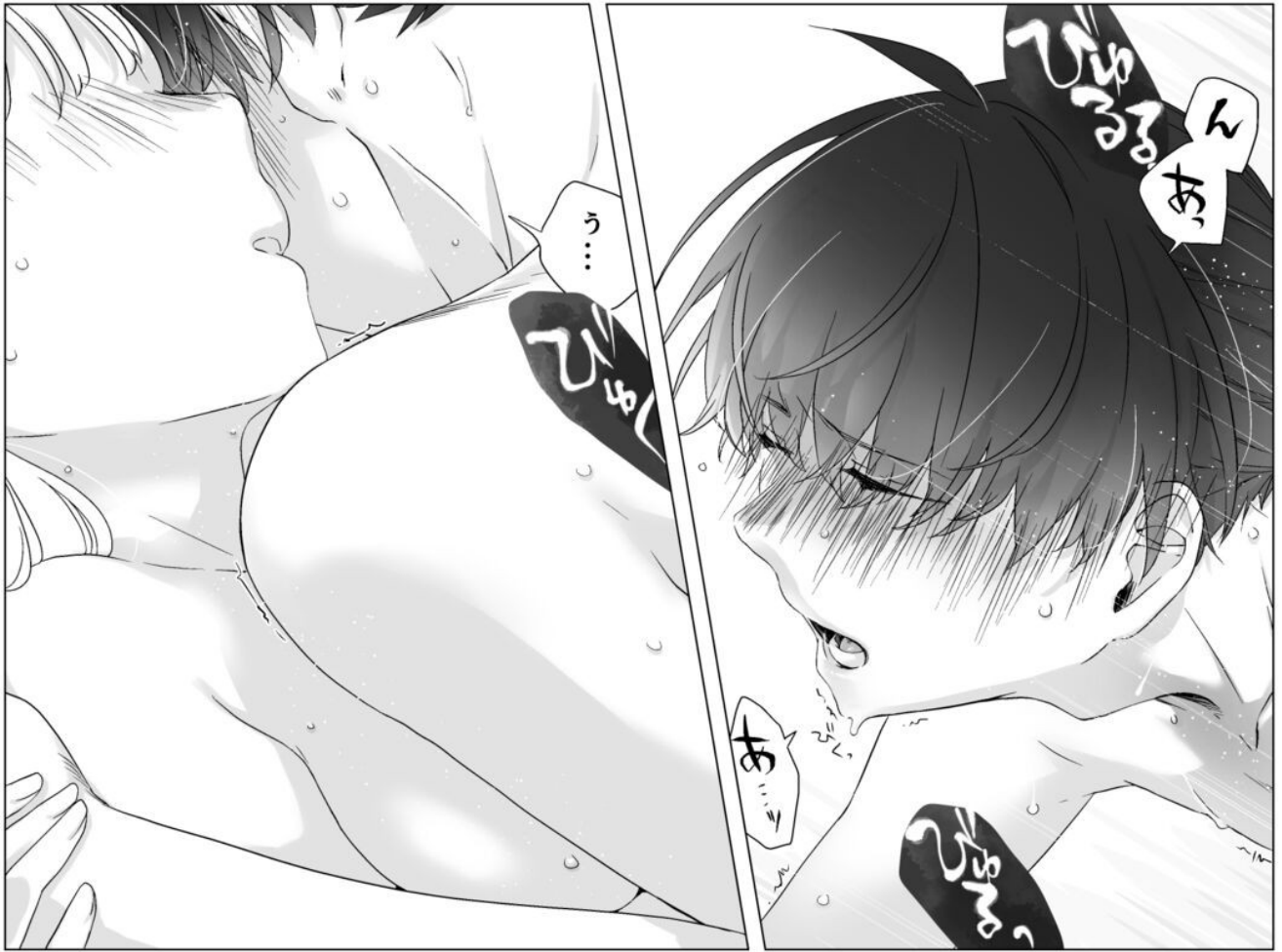
今は  
<sup>エトワード</sup>  
僕のままで







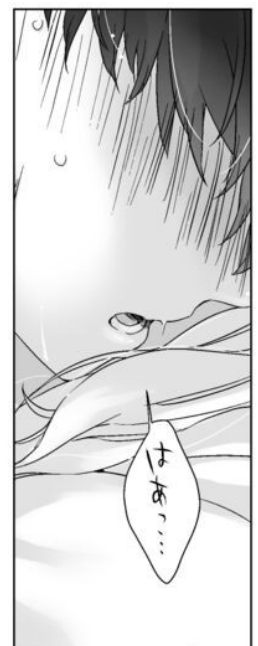




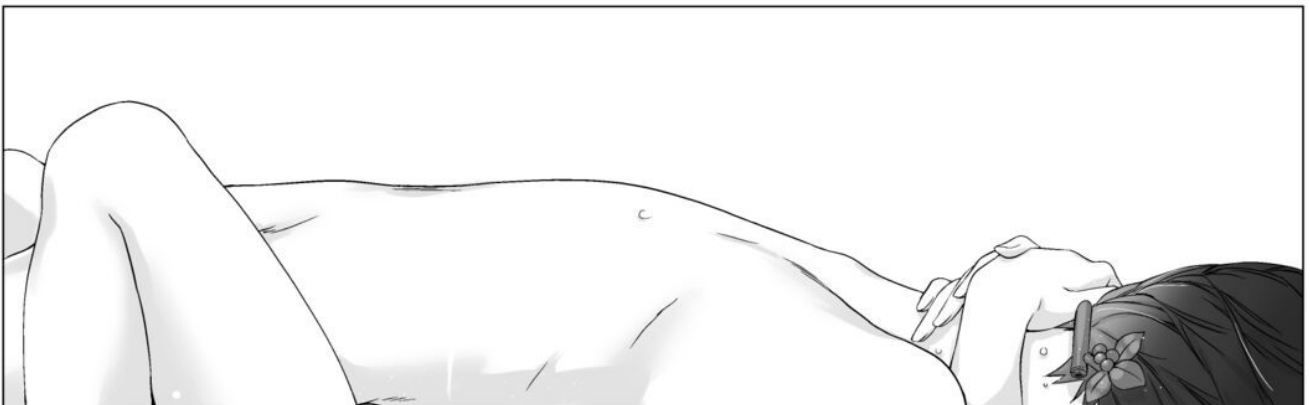
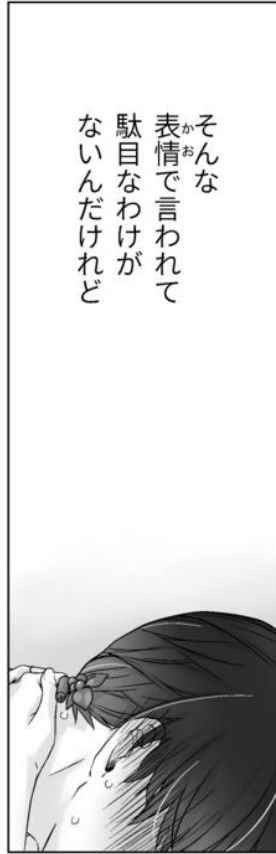


これで  
ブルーベルが  
消えずに  
済むのなら

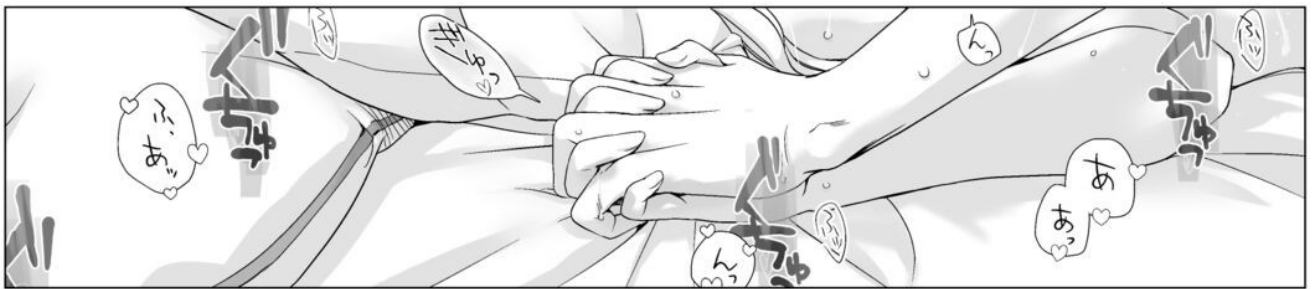
……でも  
さっぞ  
僕のことば  
どうでもいい

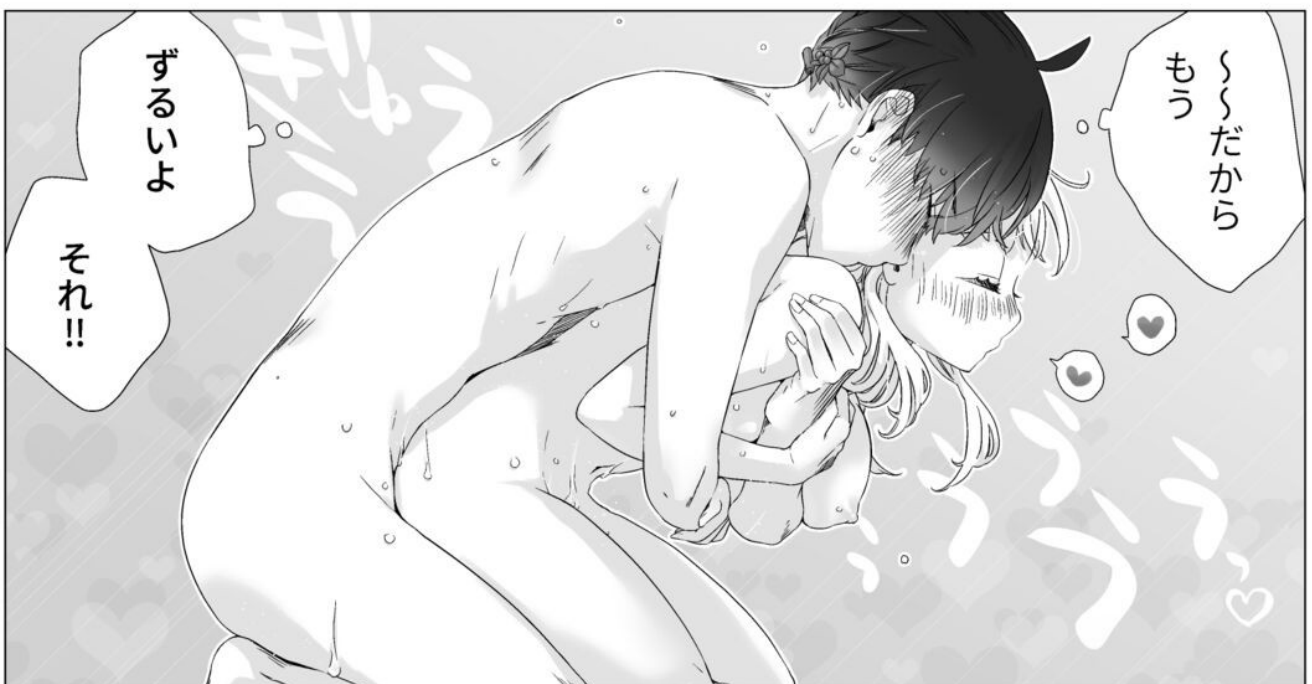


















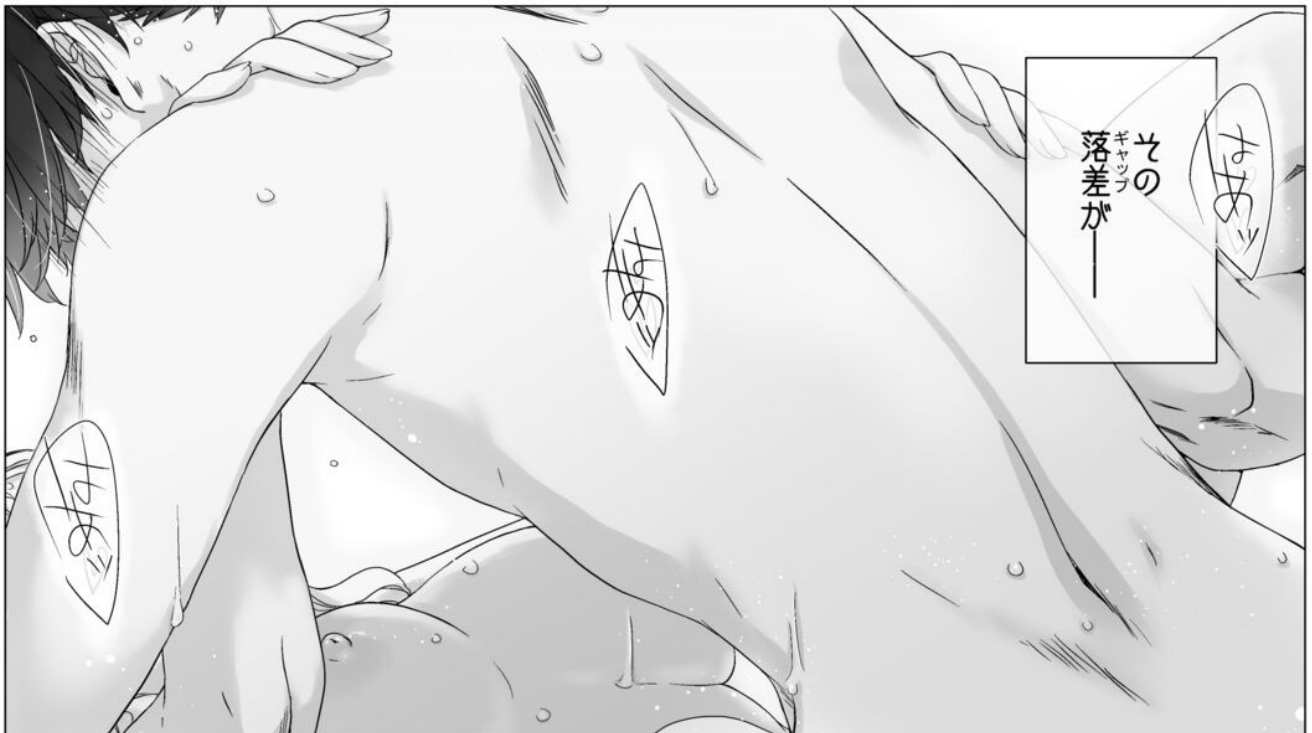


：いつも  
話し方や  
行動が幼いのに



身体つき  
反応  
声  
どれも

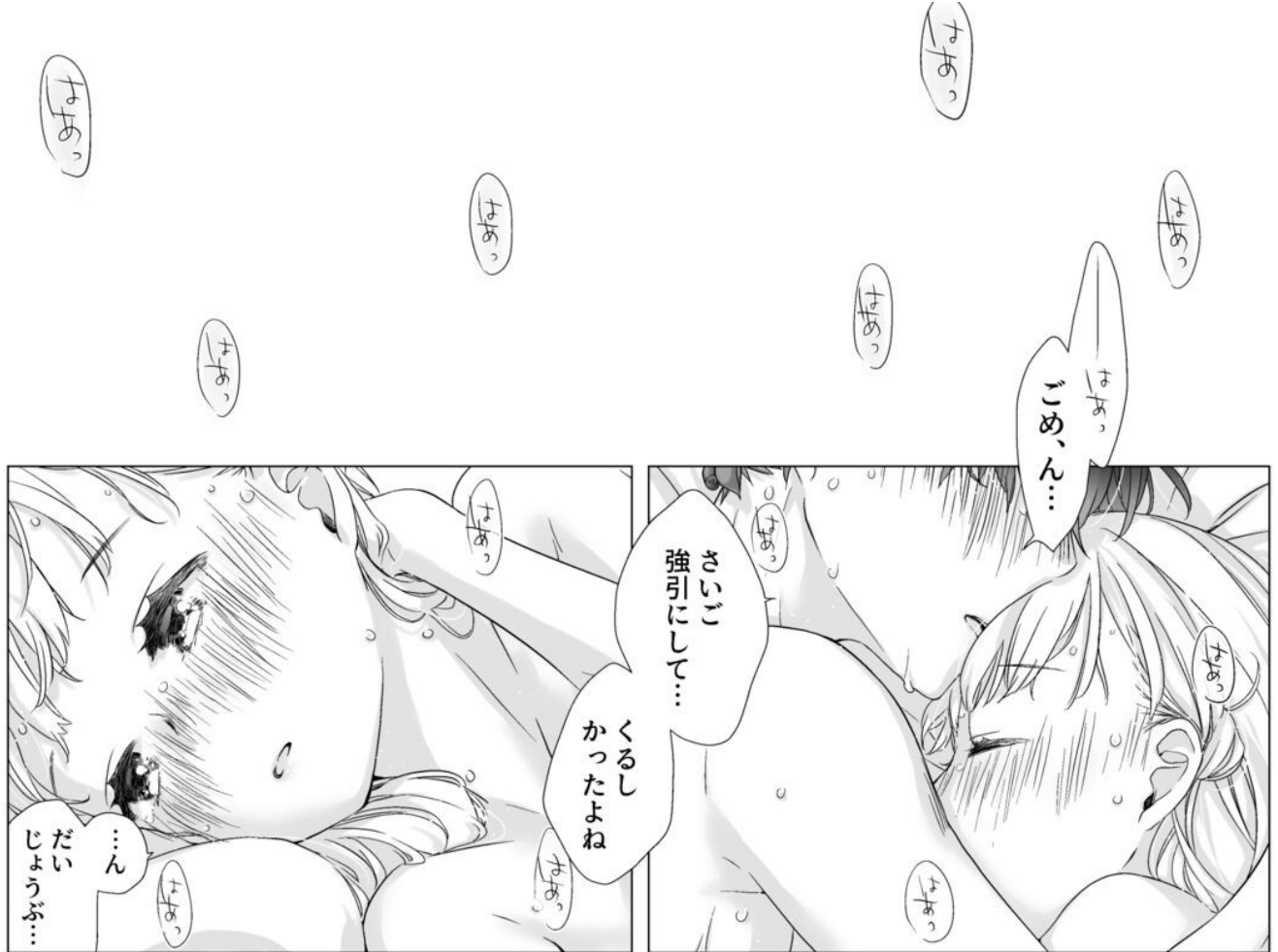
全然  
子供なんかじゃ  
なくて



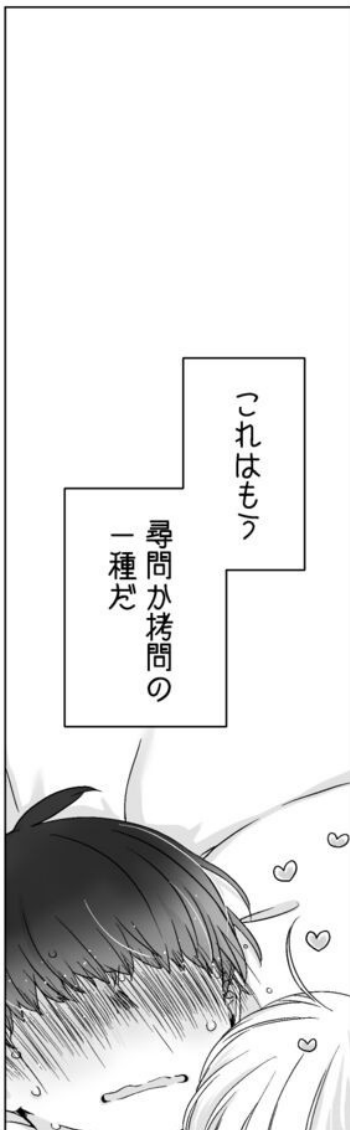
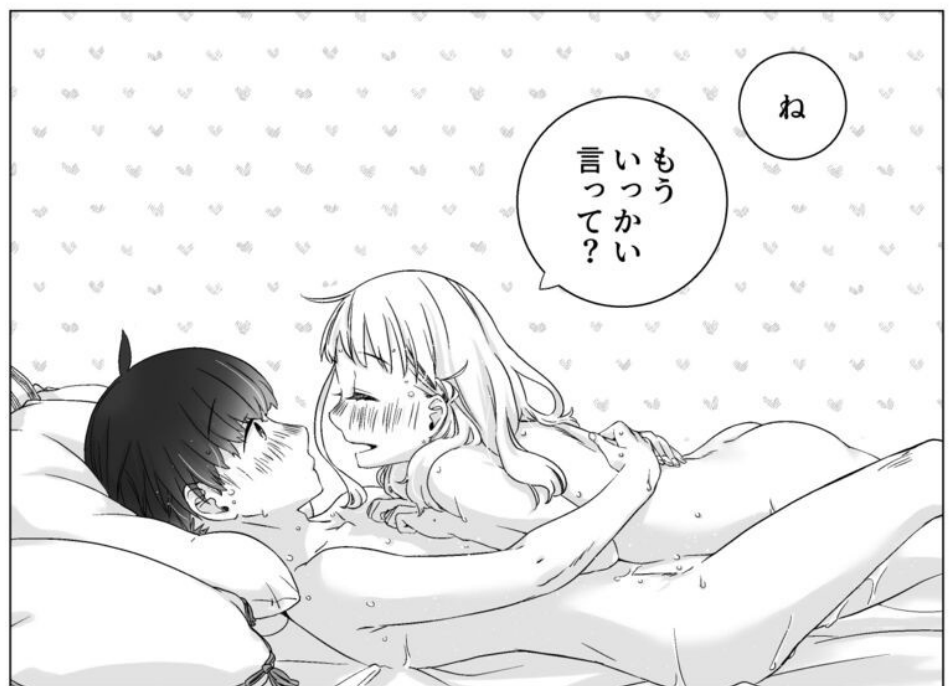
その  
ギャップ  
落差が











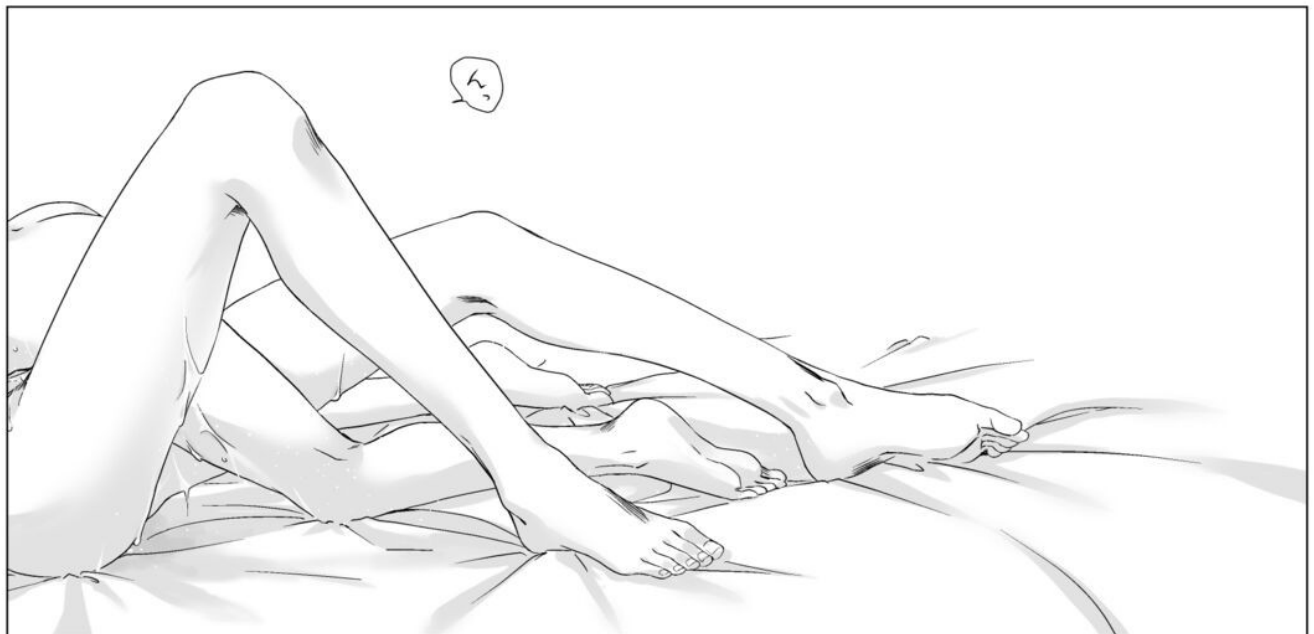
これはもっ  
尋問か拷問の  
一種だ

うん  
でも

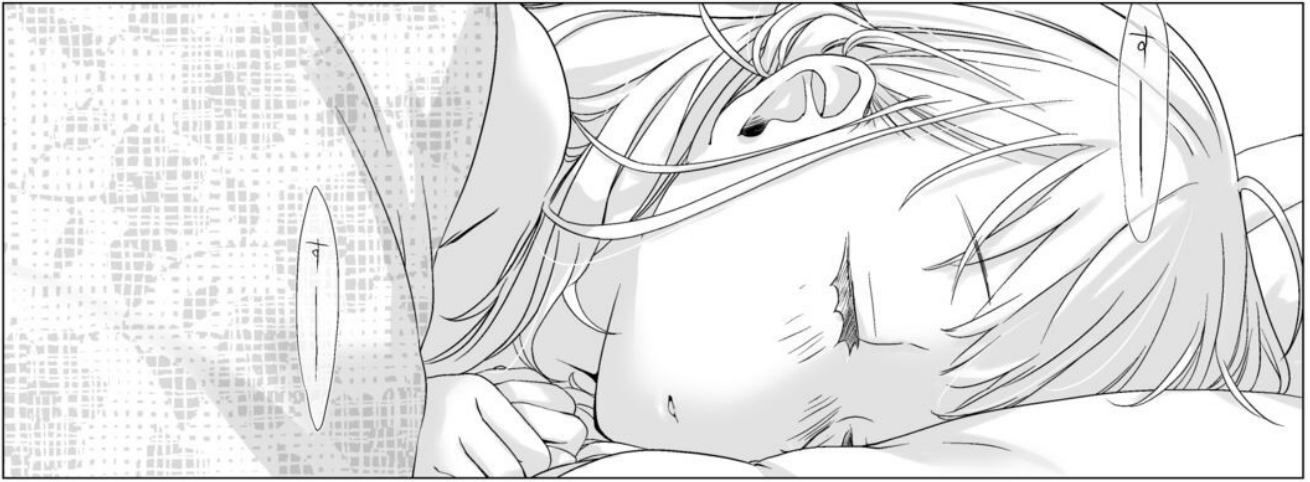
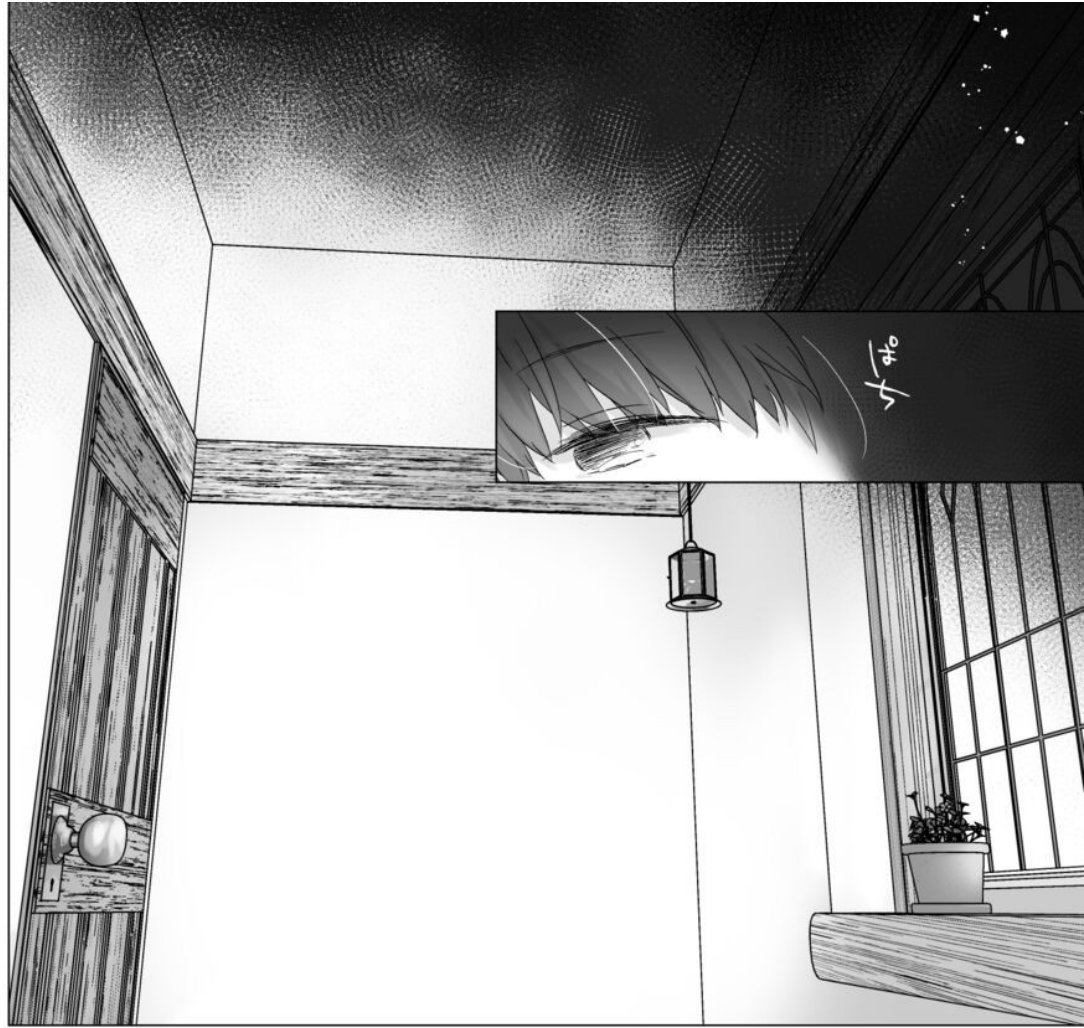
僕は  
魔法使いの  
ほうで

王子様には  
なれないけど

だけど



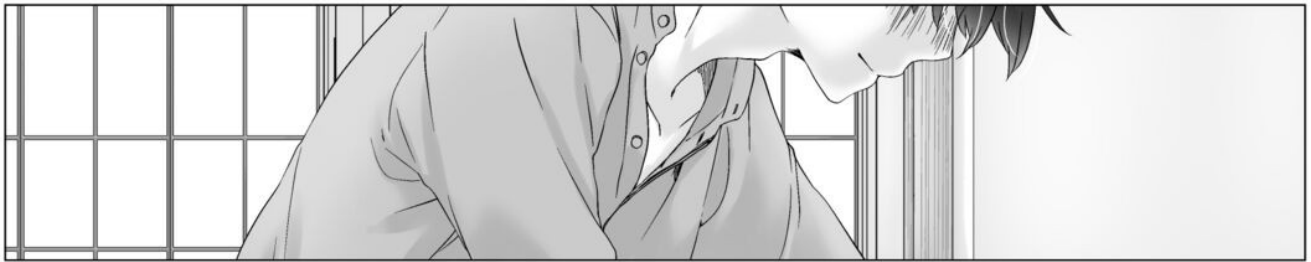






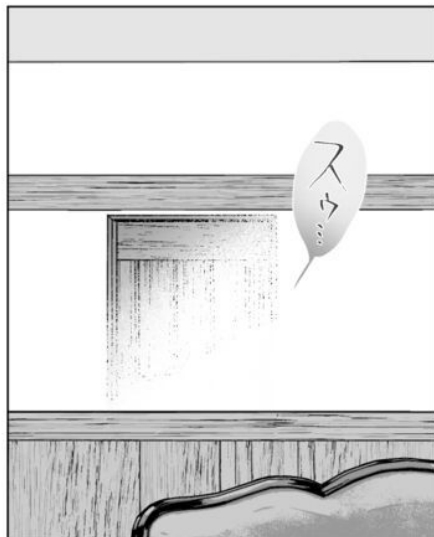


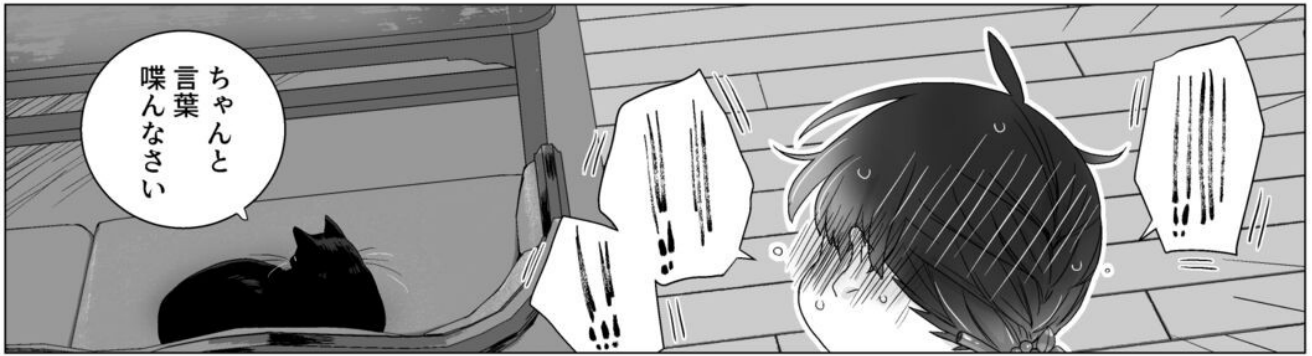




ずっと  
僕のこと  
見ててくれて

ありがとう  
ブルーベル







うん

とっ  
かす

とっ  
とす!

その様子なら  
魔力もちゃんと  
分けられた  
みたいだな

見てた癖に…



誰か  
見たもんか  
人間きの悪い

見えないよ  
いくら何でも  
弟子の情事を  
勝手に覗くほど  
悪趣味じゃないし

いつも  
見てるじゃ  
ないですか  
僕の魔法  
師匠にはまだ  
効かないんですから

あとお前  
魔力量バカ  
なんだから

もう随分前から  
私には  
お前の魔法は  
破れないんだよ



え

それはお前が  
単純で  
分かり易すぎる  
からだよ  
当てずっぽうで  
からかったら  
大抵 凶星  
突けるんだから

でも  
いつも  
見てるみたいなの  
口振り

……



そもそも  
ブルーベルを  
保護したのも  
お前の魔力量なら  
何とかなると  
踏んだからだよ

詠唱も触媒もなく  
魔法を使える  
魔法使いなんて

うちの魔法系統では  
聞いたことがない



ブルーベルは

お前だから  
救えたんだ

エドワード

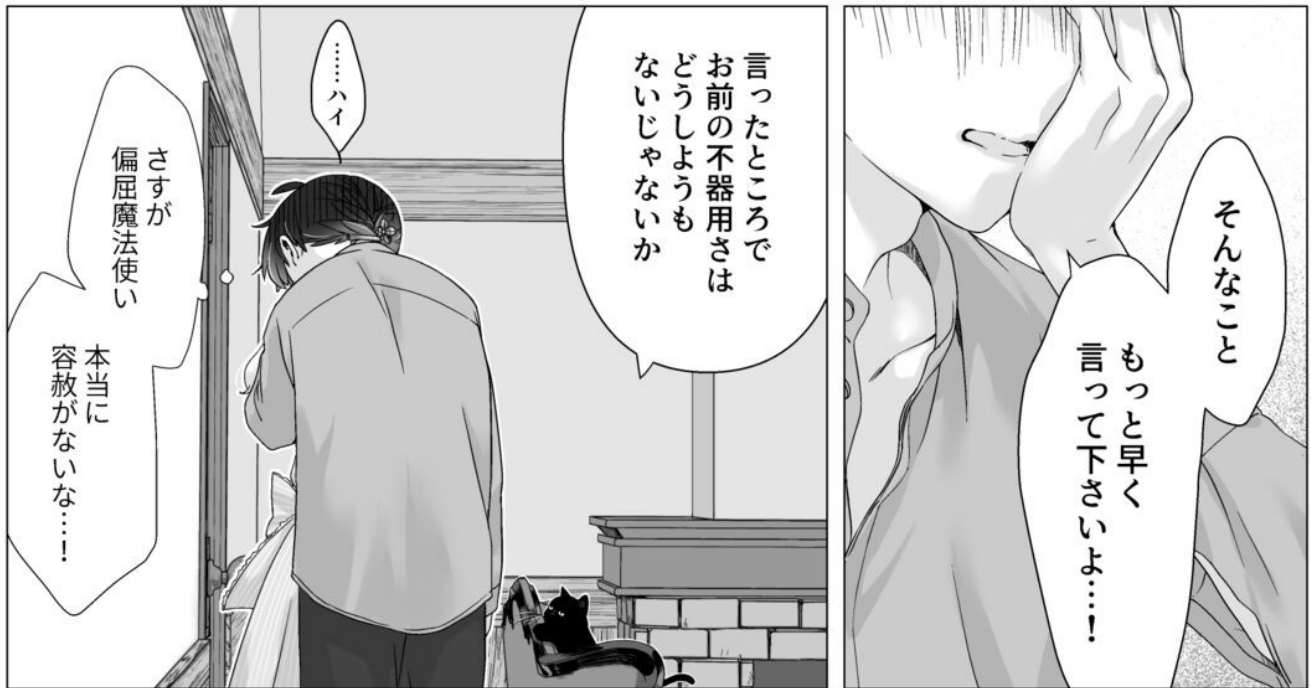


…まあ

まさか  
呪いを解くのに  
10年かかる程

お前が  
不器用だったのは  
予想外だったけど

…そ



言ったところでお前の不器用さはどうしようもないじゃないか

そんなこと

もっと早く言ったださいよ……!

さすが偏屈魔法使い  
本当に  
容赦がないな……!

……ハイ



とは言えまだコントロールは下手だなエドワード

お前の昨日の魔力量に比べて今のブルーベルの魔力が少なすぎる

魔力の無駄遣いだ

あ——  
勿体ない

言い方……

?

とく



だから  
そうだなア……

もうちょっと魔力を安定させるなら日課の魔力補給は唾液経由に変えろとして……

定期的に性交をするのが良いだろうな

え



……  
もちろん  
です



# 蛇足的なあとがき

Extra Afterword



夕飯  
どうしよう...

## エドワード

見習いの魔法使い。

実際のところは「一人前の魔法使い」と言えるレベルだが、不器用なこととプレッシャーに弱いざという時こそミスするせいで見習い止まり。

Edward

エドワードの魔法的な成長が遅いのは、本編中にもあるとおり彼が魔力バカであり、かつかなり稀有な性質をしているため、誰も彼に魔法の使い方を教えられなかったせいでもある。(ただし、それを抜いたとしても不器用)

髪を結ぶことで魔力を溜めているので多少の事では解けない仕様のエドワードの編み込み。編んだ髪が長い程魔力が溜まるがエドワードは師匠から髪を伸ばすなど言われている(魔力過多になるため)

### ◀魔法使いのローブ

表紙で着てるのにも関わらず本編中全然着てない。エドワードは比較的人間に近い生活をしているので普段は着ておらず「魔法使いとして」外出する時に着る。

## 師匠

ベテラン魔法使い。

普段は自分の工房にいて、  
エドワードの工房には使い魔の姿で現れる。  
※エドワードの工房付近にその時に居た  
動物の姿を借りるため、姿は毎回ランダム。

師匠自身、  
エドワードには魔法の指導が出来ないので  
名目上「師匠」ということになっているが  
実際は後見人のような存在。

偏屈な癖に実はエドワードには割と甘い。

## ブルーベル

人間の女の子。

エドワードの想像通り、  
保護された時点では子供だった。

毎日エドワードが話しかけたり  
本を読み聞かせたりしていたため、  
知識等はそれなりに身につけている。

が、  
精神的な面や思考、振る舞いなどは  
思春期の少女のまま。

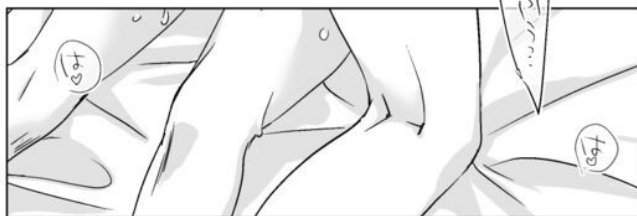
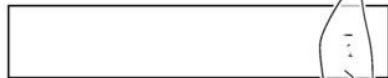
ブルーベルのドレス(エドワード製)▶

咄嗟に魔法で着せたドレス。  
1着目・2着目のどちらも  
100%エドワードの趣味と好みが出ている。

魔法で生成したもので、  
時間経過で魔力が切れて消える。



おまけ「童貞魔法使い君(当時)の夜のなにか」



んー やだー

↑のような「自慰の一部始終を見られてたエドワード」を本編に入れようとしていましたが没にしたのでここで供養。ただの羞恥エピソード

## 描いた人のごあいさつ

はじめましてのかた、あるいはいつもお世話になっておりますのかた、  
こんにちは。青色観測所です。  
「見習い魔法使い君と花の名前」を  
最後までお読みいただきありがとうございます。


毎回、描くお話の設定を少しずつ変えているのですが、  
「シリアス/悲恋」「学生もの/ゆる溺愛」ときて、  
今作は「ゆるファンタジー/なんだか純愛」と相成りました。

ファンタジー感もR18感も  
びっくりするくらい少なめになってしまいましたが、  
今回も描きたいものを存分に描けて楽しかったです。

皆様にも楽しんでいただけていたなら幸いです。

## Special thanks

ご支援・応援してくださった皆様  
長らくお待ちいただいた皆様



次も、見習い魔法使い君とブルーベルのお話を  
描けたらな～と思っていますが、予定は未定ということで。

みなら まほう つか くん はな なまえ  
見習い魔法使い君と花の名前

サークル/ 青色観測所  
発行人 / 中原水芋  
発行日 / 2022年9月5日  
連絡先 / three\_taimicroquettes@outlook.jp  
Twitter / @imomizuimo

本作の内容は全て、無断転載・複製・複写・  
インターネット(WEB・ブログ・SNS等)上への掲載を禁止します。

Unauthorized reproduction, duplication, alteration,  
and posting on the Internet (web, blog, SNS, etc.) of all the contents  
of this work are prohibited.

本作品はフィクションです。  
登場する人物や地名などは、実在するものと一切関係ありません。

